

ソニーとその時代

特集

「視点」富山和彦 経営共創基盤(I-GP)CEO

11

Interview

「ソニーらしさ」とは機能と感性の両立にありひと言葉で言えば「WOW」エレキとエンタの垣根をなくす

平井一夫

ソニー社長

16

「One Sony 戦略」

21

新入社員のアイデアを商品化

ソニーの新規事業プログラム

25

「Wena wrist」開発者・對馬哲平氏に聞く

応募前に教えてくれた

28

100人の先輩社員

28

特集2

スタートアップ福岡

ベンチャー企業創出への取り組み

高島宗一郎

福岡市長

77

自治体に特化した新形態のビジネス

時津孝康

ホープ社長

80

長期的視点で事業成長、課題解決を丸ごと提供

中尾賢一郎

グランドビジョン社長

82

平井社長が追求する「リカーリング」って何だ？
「It's a Sony 展」で振り返る
ソニー70年
商品も経営スタイルも
ソニーは常に「モルモット」

コミュニケーションと高いスキルで価値を創造

納富貞嘉

Fusic社長

83

効率的な集客をビッグデータと統計学で実現

石井陽介

あつまる社長

84

「丁寧」にこだわり続け23都道府県に400教室

吉田知明

SCホールディングス社長

85

圏外でも現在地を確認、登山愛好家必携アプリ

春山慶彦

ヤマップ社長

86

特集3

マイナス金利時代の「資産運用術」

100

特別対談

山本強 × 久保信保

国民の不安を解消し生活者の利益を守る「地盤革命」

40

地盤ネットホールディングス社長

自治体衛星通信機構理事

神田昌典対談企画「知」の伝道者

ゲスト 茂木友三郎

後編

96

キッコーマン取締役名誉会長、取締役会議長

ゲスト 樋口宏江

前編

136

志摩観光ホテル総料理長

連載 深読み経済ニュース解説

スポーツインサイドアウト

118

三橋貴明

中村龍明

124

WORLD INSIGHT

ミスショット110番

126

藤田勉

Dr.加藤俊徳の脳番地塾

128

グローバルニュースの深層

早稲田大学

130

柯隆

PHOTO REPORT

132

ニューヨークレポート

和橋会

134

津山恵子

経済界倶楽部

136

実録！関西の勇士たち

東京・横浜11月例会

138

真島弘

金の卵発掘プロジェクト2016

140

カオス(混沌)の国、インド市場を知る

最終審査会開催

142

帝羽ニルマラ純子

HEADLINE

144

永田町ウオッチング

企業EYE

146

鈴木哲夫

大人のエンタメ

148

霞が関番記者レポート

FROM EDITOR

150

シリーズ温故知新

第64回「社長の視野」
どうなるソニー、神話崩壊か、げり論の盛田昭夫社長に直撃！

盛田昭夫

ソニー社長(当時)

88

ニコンのリストラに見る日本半導体の落日

44

「空港の民営化」は地方創生の切り札となるか

46

日銀の世界初「長期金利操作」は早くも正念場

48

連合、形無し、官製春闘4年目の行方

50

東電TF会合、度重なる失態で経産省に非難集中

52

躊躇なく子会社を売却する日産自動車の決断のすこみ

54

Topic Interview

「成長著しいインドのポテンシャルをビジネスチャンスに生かしていく」

段谷繁樹

双日副会長

56

「瀬戸内カレン」と「ekakashii」で「世界をもっと心地よくする」

山口典男

PSソリューションズCPS事業本部本部長

58

岩沙弘道

三井不動産会長

90

牛島信

弁護士、作家

最終回



1946年、東京通信工業が誕生した。以来70年、東京通信工業はソニーへと名前を変え、日本を代表するエレクトロニクスメーカーとなり、熱烈なソニーファンを生んだ。その成長の軌跡は「ソニー神話」と呼ばれたほどで、「SONY」は世界トップのブランド力を持つまでになった。しかし21世紀に入ってからのというもの、ソニーは輝きを失った。ヒット商品は生まれず、かつての稼ぎ頭のテレビは赤字を垂れ流す体たらくで、多くのソニーファンは嘆き悲しんだ。それがここに来てようやく、復活の兆しが見え始めた。ソニーらしい商品も出るようになってきた。このまま復活への道を歩んでいけるのか。ソニーの「昨日・今日・明日」を追った。(本誌/関 慎夫)



特集

ソニーとその時代

SONY



ソニー社長 平井一夫

「ソニーらしさ」とは 機能と感性の両立にあり ひと言で言えば「WOW」

70周年を迎えたソニー。平井一夫氏はその10代目の社長となる。就任からしばらくは茨の道が続いていたが、ようやく明るさが見え始めた。ソニーを変えるために何をしてきたのか。復活への道筋はどこまでできているのか。そして「ソニーらしさ」とは何か。平井一夫社長に聞いた。

来期5千億円の 営業利益に自信あり

——今年ソニーは70周年を迎えました。

平井 社員にもよく言うのですが、いい時もあれば悪い時もありましたが、会社として70年間続いたということは、商品やサービスを利用し評価していただくお客さまや、株主の方々、サプライヤーなどのビジネスパートナー、リテラーやディーラーの皆さん、それにメディアの人

たちなど、ありとあらゆるステークホルダーの皆さんのお陰です。それに対して感謝の気持ちを持たなければいけない。社員にもう一つ言っているのは、毎日仕事ができるのは、サポートしてくれる家族や、パートナー、場合によってはお友達、親戚のお陰です。ですからキーワードは「感謝」。これを忘れてはならないし、それがこれからのソニーの原動力になっていきます。

——数年前まで苦境に喘いでいたソニーですが、最近は何もしてきませんでした。でも、先日発表した中間決算は円高もあって減収減益。通期見通しも下方修正し、営業利益は2700億円の見込みです。ソニーは昨年発表した中期経営計画で、2018年3月期に営業利益5千億円を掲げています。これを達成するには今期の2700億円を1年間で